



平成 19 年 6 月期 第3四半期財務・業績の概況(連結)

平成19年5月28日

上場会社名 グッドウィル・グループ株式会社

(コード番号 4723 東証第1部)

(URL <http://www.goodwill.com>)

代表者 役職名 代表取締役会長兼 CEO

氏名 折口 雅博

問い合わせ先 役職名 常務取締役兼 CFO

氏名 金崎 明

TEL (03) 3405 - 9228

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有

当社及び連結子会社の退職給付債務の計算は、従来簡便法によっておりましたが、当第3四半期連結会計期間から一部の連結子会社において原則法により計算する方法へ変更しております。この変更は、一部の連結子会社について、退職給付債務を原則法で計算する環境が整ったことにより、期間損益を適正に表示するためのものであります。なお、当該変更による影響額は軽微であります。

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 連結(新規) 70 社
(除外) - 社

2. 平成19年6月期第3四半期財務・業績の概況(平成18年7月1日～平成19年3月31日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

(百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益 又は純損失()	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年6月期第3四半期	324,140	(139.9)	9,228	(67.9)	6,863	(51.5)	28,472	-
18年6月期第3四半期	135,135	(29.9)	5,496	(20.5)	4,531	(24.0)	1,491	-
(参考)18年6月期	185,948	(30.8)	7,895	(40.5)	6,704	(55.2)	3,429	(134.4)

	1株当たり四半期(当期) 純利益 又は純損失()		潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年6月期第3四半期	13,658	52	-	-
18年6月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)18年6月期	1,743	22	-	-

(2) 財政状態(連結)の変動状況

(百万円未満切捨)

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
19年6月期第3四半期	420,801		46,994		5.2	10,483	17	
18年6月期第3四半期	165,356		56,378		34.1	57,523	55	
(参考)18年6月期	139,541		50,733		35.4	23,783	09	

[ご参考]平成19年6月期(平成18年7月1日～平成19年6月30日)の連結業績予想

	売上高		経常利益		当期純損失		1株当たり 当期純損失	
	百万円		百万円		百万円		円	銭
通期	500,000		10,000		30,000		14,337	91

- (注)1. 売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。
2. 平成18年6月期第3四半期の四半期(当期)純利益は発表しておりませんが、概算値で計上しております。なお前年同期比増減率につきましては、平成17年6月期第3四半期の四半期(当期)純利益の計算を行っていないため、非表示としております。
3. 平成18年3月1日の株式分割等の影響を加味した前年同四半期の1株当たり純資産は19,174円51銭となります。
4. 業績予想は「平成19年6月期中間決算短信(連結)」にて発表致しました平成19年3月30日付公表の上記業績予想から変更はありません。上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて当社経営者が判断したものであり、実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、雇用情勢の変化、金利等の変更、当社グループが行う事業に関する諸法令の施行・改正、天災事変に伴う企業インフラの損害等さまざまな要素により、本資料記載の内容と異なる結果となることがあることを予めご承知おきください。

経営成績及び財政状態

平成19年6月期第3四半期連結業績(平成18年7月～平成19年3月)は、
売上高139.9%増・経常利益 51.5%増。
M&Aをした (株)グッドウィル・プレミア(旧株)クリスタル)の平成18年10月から12月までの業績が
含まれております。

平成19年5月1日に社名変更いたしました。

1. 経営成績

第3四半期連結業績ハイライト

当第3四半期:平成18年7月1日～平成19年3月31日 / 前第3四半期:平成17年7月1日～平成18年3月31日

(単位:百万円)

	当第3四半期	前第3四半期	増減率
売上高	324,140	135,135	139.9%
売上原価	241,954	90,164	168.3%
売上総利益	82,185	44,970	82.8%
(注) のれん償却額	2,283	1,358	68.1%
営業利益	9,228	5,496	67.9%
支払利息	1,933	862	124.3%
経常利益	6,863	4,531	51.5%
四半期(当期)純利益又は純損失()	28,472	1,491	-

(注) のれん償却額の増加について

前年同四半期比9億25百万円増加の22億83百万円となっております。

< 内訳 >	のれん償却額	(株)コムスン	…	7億14百万円
		(株)グッドウィル・プレミア	…	8億54百万円
		その他	…	7億15百万円

< 当四半期の概況 >

当第3四半期の経済環境は、大企業を中心とした好調な企業業績を背景に、景気の回復基調が継続致しました。為替は円安傾向となり、輸出関連企業などを中心に概ね堅調に推移致しました。一方で原油価格の高騰など不安定な要因も散見されております。

このような環境下、平成18年10月にM&Aした人材派遣・請負事業の㈱グッドウィル・プレミアの平成18年10月から12月までの3ヶ月間の業績が当第3四半期において、連結算入されたことが連結業績に大きく寄与致しております。好景気下、人手不足による人材ビジネス市場全般での強い需要が続いており、「人材派遣・請負事業」は引き続き順調に伸長致しました。また、介護ビジネス市場では、平成18年4月からの介護保険改正の影響を受け、制度変更や報酬単価の見直しにより、特に在宅介護における収益の確保が困難な状況となっております。コンプライアンス重視、ガバナンス整備の観点からも在宅介護事業を中心に介護ビジネスモデルの再構築を進めております。結果「介護・医療支援事業」は損失を計上しております。

「人材派遣・請負事業」においては、平成18年10月にM&Aした㈱グッドウィル・プレミアの業績が大きく寄与致しております。㈱グッドウィル・プレミアは製造派遣、技術者派遣、一般事務派遣等を国内外において幅広く事業展開しており、これにより当事業セグメントの規模拡大とともにグループシナジーを強く生み始めております。具体的シナジーとして、エンジニアの逼迫が顕著となっている技術者派遣事業において、これに対応するため技術者派遣事業を拡大させております。急成長致してまいりました㈱グッドウィル・エンジニアリングとこれに㈱グッドウィル・プレミアの技術者派遣事業部門が加わることにより、圧倒的なエンジニア数・人材規模を確保し当分野において最大手となっております。好景気下、人材ビジネス全般においては、企業の人材ニーズが高まる一方で、コスト削減による経営効率化を推進するため、人材派遣需要は大きく高まっております。㈱グッドウィルにおいては登録スタッフ数の増加による人材供給量の拡大と支店拡大によるネットワーク力の整備により、着実な成長を続けております。また、一般事務派遣の新しいレーベル「グッドウィル・BIZ」を立ち上げており、こちらも急速に成長致しております。結果、総合人材サービス会社として事業のフルラインアップ化を図っており、人材サービス国内最大手となっております。

「介護・医療支援事業」においては、介護保険法改正という大きな変化を迎え、その影響により特に在宅介護において事業の収益の確保が困難な状況に至っております。現在サービスをご利用頂いているお客様にご不便やご迷惑をお掛けせぬよう、また従業員の雇用継続に支障をきたさぬよう十分に留意し、また慎重に進めながら、適正な人員配置化、そのための事業所の統合や管理体制の強化、抜本的な構造改革を含め、介護ビジネスモデルの再構築を行っております。

「シニアレジデンス・レストラン事業」においては、平成18年5月に「バーリントンハウス馬事公苑」が開業し、開業以来シニア層のニーズにマッチしたレジデンスとして好評を得、お申し込みをいただいております。レストラン事業においては、㈱コムスの施設介護事業における各介護施設の給食部門の運営を行っており、施設の入居率向上という事業シナジーを発揮致しております。またレストラン事業本体の成長も図っております。

「その他事業」においては、そのニーズの高まりから今後事業規模の拡大が見込まれる保育関連市場やペット関連市場において、事業基盤の整備を進めております。総合人材サービスの事業ラインとして幅広いニーズに応え、付加価値を加えるための事業も継続して事業基盤の整備を進めております。

㈱グッドウィル・プレミアのM&Aが当第3四半期から連結算入された事及び 人材派遣・請負事業が引き続き堅調に推移した事、これまでの積極的なM & Aの効果寄与などにより、当第3四半期の売上高は前年同期より1,890億5百万円増加して3,241億40百万円と大幅な増収となりました。

同様に、積極的なM&Aによる収益の増加分が金利・のれん償却の増加分を吸収し、経常利益は前年同期より23億31百万円増加して68億63百万円となりました。

しかしながら、介護・医療支援事業等において減損に係る会計基準を適用したことなどの理由により、最終損益は前年同期より299億63百万円減少して284億72百万円の四半期(当期)純損失となりました。

なお、当第3四半期におけるセグメント別の業績は、次の通りであります。

(人材派遣・請負事業)

(単位:百万円)

	19年6月期第3四半期 自平成18年7月1日 至平成19年3月31日	18年6月期第3四半期 自平成17年7月1日 至平成18年3月31日	増減率
外部顧客に対する売上高	248,022	83,663	196.4%
セグメント間の売上高	669	250	167.3%
売上高計	248,692	83,913	196.3%
営業利益(又は営業損失)	11,622	6,214	87.0%
のれん償却前営業利益	12,636	6,236	102.6%

当第3四半期における人材派遣・請負事業については、平成18年10月にM&Aした㈱グッドウィル・プレミアの平成18年10月から12月までの3ヶ月間の業績が当四半期において、連結算入されたことが当事業セグメントに大きく寄与しております。好景気下、企業の人材ニーズが高まる一方で、コスト削減による経営効率化を推進するため、人材派遣の需要は大きく高まっております。

㈱グッドウィル・プレミアは製造派遣、技術者派遣、一般事務派遣等を国内外において幅広く事業展開をしており、当事業セグメントにおける規模拡大とともに当社グループとの事業シナジーを強く生み始めております。製造派遣・請負や技術者派遣などの主に長期派遣に強みを持つ㈱グッドウィル・プレミアとITシステムを活用して主に短期派遣に強みを持つ㈱グッドウィルが当事業分野において企業グループ間の競争とともに共生することで、スケールメリットを創造致しております。結果、企業サイドの様々な人材ニーズを幅広い事業ラインにて対応することが可能となり、総合人材サービス会社として国内最大手となっております。

当グループにおいて成長が顕著な技術者派遣事業部門において、㈱グッドウィル・プレミアの技術者派遣事業部門と㈱グッドウィル・エンジニアリングの具体的な事業シナジーが生まれ始めております。機械、電気・電子、情報処理、制御などの各種分野で高いスキルを持つエンジニアを圧倒的に確保することで、当事業分野の最大手となっております。エンジニアの逼迫という市場環境から今後の成長も大いに見込まれます。

人材確保、リクルーティング活動とクライアントの認知、マーケティング活動双方のバックアップ機能を目的として、積極的な広報活動を継続致しております。テレビCMなどマスメディアを活用して積極的に知名度、ブランド向上を図っており、引き続き良い成果に結びついております。

これらの結果、当第3四半期における人材派遣・請負事業の業績は、売上高が前年同期より1,643億59百万円増加して2,480億22百万円、営業利益が前年同期より54億7百万円増加して116億22百万円となりました。

(介護・医療支援事業)

(単位:百万円)

	19年6月期第3四半期 自平成18年7月1日 至平成19年3月31日	18年6月期第3四半期 自平成17年7月1日 至平成18年3月31日	増減率
外部顧客に対する売上高	62,716	46,890	33.7%
セグメント間の売上高	0	2	-
売上高計	62,716	46,893	33.7%
営業利益(又は営業損失)	1,787	608	-
のれん償却前営業利益	947	1,680	-

「介護・医療支援事業」においては、平成18年4月からの介護保険法改正の影響を受け、特に在宅介護事業において収益の確保が困難な状況となっております。制度変更や報酬単価の見直しに対する対応を含め、コンプライアンス重視、ガバナンス整備を強く求められております。現在サービスをご利用頂いているお客様にご不便やご迷惑をお掛けせぬよう、また従業員の雇用継続に支障をきたさぬよう十分に留意し、また慎重に進めながら、適正な人員配置化、そのための事業所の統合や管理体制の強化、抜本的な構造改革を含め、介護ビジネスモデルの再構築を行っております。

これらの結果、当第3四半期における介護・医療支援事業の業績は、売上高が前年同期より158億26百万円増加して627億16百万円、営業損失は17億87百万円(前年同期は6億8百万円の営業利益)となりました。

(シニアレジデンス・レストラン事業)

(単位:百万円)

	19年6月期第3四半期 自平成18年7月1日 至平成19年3月31日	18年6月期第3四半期 自平成17年7月1日 至平成18年3月31日	増減率
外部顧客に対する売上高	8,908	1,728	415.5%
セグメント間の売上高	624	60	934.5%
売上高計	9,532	1,788	433.0%
営業利益(又は営業損失)	989	964	2.5%
のれん償却前営業利益	884	935	-

「シニアレジデンス・レストラン事業」においては、平成18年5月に「パーリントンハウス馬事公苑」が開業し、開業以来シニア層のニーズにマッチしたレジデンスとして好評を得、お申し込みをいただいております。レストラン事業においては、㈱コムソンの施設介護事業における各介護施設の給食部門の運営を行っており、施設の入居率向上という事業シナジーを発揮致しております。またレストラン事業本体の成長も図っております。

これらの結果、当第3四半期のシニアレジデンス・レストラン事業の業績は、売上高が前年同期より71億80百万円増加して89億8百万円、営業損失が9億89百万円(前年同期は9億64百万円の営業損失)となりました。

(その他事業)

(単位:百万円)

	19年6月期第3四半期 自平成18年7月1日 至平成19年3月31日	18年6月期第3四半期 自平成17年7月1日 至平成18年3月31日	増減率
外部顧客に対する売上高	4,492	814	451.3%
セグメント間の売上高	2,436	2	-
売上高計	6,929	817	747.6%
営業利益(又は営業損失)	39	109	-
のれん償却前営業利益	284	91	-

「その他事業」においては、そのニーズの高まりから今後事業規模の拡大が見込まれる保育関連市場やペット関連市場において、事業基盤の整備を進めております。人材紹介事業、EAP事業、再就職支援事業など総合人材サービスの事業ラインとして幅広いニーズに応え、付加価値を加えるための事業も継続して事業基盤の整備を進めており、当事業セグメントにおいては引き続き先行投資のステージとなっております。

これらの結果、当第3四半期のその他事業の業績は、売上高が前年同期より36億77百万円増加して44億92百万円、営業損失が前年同期より70百万円減少して39百万円となりました。

2. 財政状態

当第3四半期末の総資産は4,208億1百万円と前連結会計年度末に比べて2,812億59百万円の増加となりました。負債合計は3,738億6百万円と前連結会計年度末に比べて2,849億98百万円の増加となりました。また、株主資本は217億52百万円と前連結会計年度末に比べて276億78百万円の減少となりました。

主な増減要因は以下の通りです。

資産の部で流動資産が2,458億73百万円と前連結会計年度末に比べて1,960億98百万円の増加となりました。これは現金及び預金が855億23百万円と前連結会計年度末に比べて692億7百万円の増加となったこと及び受取手形及び売掛金が1,078億43百万円と前連結会計年度末に比べて794億15百万円の増加となったことなどによるものであります。平成18年10月に㈱グッドウィル・プレミア(旧㈱クリスタル)をM&Aしたことにより大きく増加しています。無形固定資産は763億66百万円と前連結会計年度末に比べて428億25百万円の増加となりました。これは、㈱グッドウィル・プレミア等のM&Aにより海外の無形固定資産が78億81百万円と前連結会計年度末に比べて78億76百万円増加したことや、のれんが653億16百万円と前連結会計年度末に比べて323億37百万円増加したことなどによるものです。

負債の部では流動負債が3,088億40百万円と前連結会計年度末に比べて2,660億62百万円の増加となりました。これは短期借入金M&A等のため1,732億86百万円と前連結会計年度末に比べて1,537億54百万円の増加となったことなどによるものであります。固定負債は649億66百万円と前連結会計年度末に比べて189億36百万円の増加となりました。これは㈱グッドウィル・プレミア等のM&Aにより社債が74億81百万円、退職給付引当金が63億92百万円と前連結会計年度末に比べて63億50百万円増加したことや㈱コムソンの介護施設への入居者増加により長期預り保証金が74億32百万円と前連結会計年度に比べて26億72百万円増加したことなどによるものです。

3. 当期の見通し

日本経済は好景気下、首都圏、大企業の好景気が地方、中小企業にも広がりを見せ活力が感じられます。今後も企業の効率経営は一層進むものと予想され、アウトソーシングを有効に活用することにより、人件費を固定費から変動費化する動きはますます加速する傾向にあると考えております。こうした状況に対応して、「人材派遣・請負事業」においては、㈱グッドウィル・プレミアのM&Aによる事業規模拡大、長期派遣から短期派遣まで総合的に人材サービスを提供するとともに、引き続き事業基盤を整備し、高まる需要を取り込みながら、安定した収益確保を図り、成長してまいります。当事業セグメントにおける売上高は約4,000億円を見込んでおります。

また、「介護・医療支援事業」においては、現在サービスをご利用頂いているお客様にご不便やご迷惑をお掛けせぬよう、また従業員の雇用継続に支障をきたさぬよう十分に留意し、また慎重に進めながら、適正な人員配置化、そのための事業所の統合や管理体制の強化、抜本的な構造改革を含め、ビジネスモデルの再構築を行いながら全体収益に与える影響を軽微なものとしてまいります。当事業セグメントにおける売上高は約800億円を見込んでおります。

「シニアレジデンス・レストラン事業」及び「その他事業」の事業セグメントにおける売上高は約200億円を見込んでおります。

以上より当連結会計年度(通期)の見通しにつきましては、売上高が5,000億円、経常利益は100億円、当期純損失は300億円を見込んでおります。

4. 第3四半期連結財務諸表
第3四半期の(要約)連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	19年6月期第3四半期 平成19年3月31日現在		18年6月期第3四半期 平成18年3月31日現在		前年同期比増減		(参考) 平成18年6月期
	(A)		(B)				
	金額	百分比	金額	百分比	金額(A)-(B)	増減率	金額
(資産の部)							
流動資産							
1. 現金及び預金	85,523		42,268		43,255	102.3%	16,315
2. 受取手形及び売掛金	107,843		31,688		76,155	240.3%	28,428
3. たな卸資産	1,705		643		1,062	165.2%	599
4. その他	50,801		3,139		47,661	1518.1%	4,431
流動資産合計	245,873	58.4%	77,739	47.0%	168,134	216.3%	49,775
固定資産							
1. 有形固定資産	64,910		42,068		22,842	54.3%	45,479
2. 無形固定資産	76,366		33,851		42,514	125.6%	33,540
3. 投資その他の資産	33,650		11,696		21,954	187.7%	10,746
固定資産合計	174,927	41.6%	87,617	53.0%	87,310	99.7%	89,766
資産合計	420,801	100.0%	165,356	100.0%	255,445	154.5%	139,541
(負債の部)							
流動負債							
1. 支払手形及び買掛金	9,392		1,073		8,318	775.1%	483
2. 短期借入金	173,286		24,844		148,442	597.5%	19,532
3. その他	126,161		22,287		103,874	466.1%	22,762
流動負債合計	308,840	73.4%	48,204	29.2%	260,635	540.7%	42,778
固定負債							
1. 社債	7,481		0		7,481	0.0%	-
2. 長期借入金	39,611		55,076		15,464	28.1%	40,274
3. その他	17,873		4,317		13,556	314.0%	5,755
固定負債合計	64,966	15.4%	59,393	35.9%	5,573	9.4%	46,029
負債合計	373,806	88.8%	107,598	65.1%	266,208	247.4%	88,808
(少数株主持分)							
少数株主持分	-	-	1,379	0.8%	-	-	-
(資本の部)							
資本金	-	-	26,618	16.1%	-	-	-
資本剰余金	-	-	39,702	24.0%	-	-	-
利益剰余金	-	-	9,912	6.0%	-	-	-
その他有価証券評価差額金	-	-	5	0.0%	-	-	-
為替換算調整勘定	-	-	27	0.0%	-	-	-
自己株式	-	-	8	0.0%	-	-	-
資本合計	-	-	56,378	34.1%	-	-	-
負債、少数株主持分 及び資本合計	-	-	165,356	100.0%	-	-	-
(純資産の部)							
株主資本							
1. 資本金	26,618	6.3%	-	-	-	-	26,618
2. 資本剰余金	35,980	8.6%	-	-	-	-	35,620
3. 利益剰余金	38,340	9.1%	-	-	-	-	8,830
4. 自己株式	2,506	0.6%	-	-	-	-	3,978
株主資本合計	21,752	5.2%	-	-	-	-	49,431
評価・換算差額等							
1. その他有価証券評価差額金	34	0.0%	-	-	-	-	6
2. 繰延ヘッジ損益	0	0.0%	-	-	-	-	59
3. 為替換算調整勘定	217	0.0%	-	-	-	-	14
評価・換算差額等合計	182	0.0%	-	-	-	-	39
少数株主持分	25,059	6.0%	-	-	-	-	1,341
純資産合計	46,994	11.2%	-	-	-	-	50,733
負債純資産合計	420,801	100.0%	-	-	-	-	139,541

第3四半期の(要約)連結損益計算書(累計)

(単位:百万円)

科目	19年6月期第3四半期 自平成18年7月1日 至平成19年3月31日 (A)		18年6月期第3四半期 自平成17年7月1日 至平成18年3月31日 (B)		前年同期比増減		(参考) 平成18年6月期
	金額	百分比	金額	百分比	金額(A)-(B)	増減率	金額
	売上高	324,140	100.0%	135,135	100.0%	189,005	139.9%
売上原価	241,954	74.6%	90,164	66.8%	151,790	168.3%	123,779
売上総利益	82,185	25.4%	44,970	33.2%	37,214	82.8%	62,168
販売費及び一般管理費 (うち のれん償却額)	72,957 (2,283)	22.5% (0.7%)	39,474 (1,358)	29.2% (1.0%)	33,482 (925)	84.8% (68.1%)	54,273 (1,838)
営業利益	9,228	2.9%	5,496	4.0%	3,732	67.9%	7,895
営業外収益	1,063	0.3%	350	0.2%	712	203.2%	480
営業外費用	3,428	1.1%	1,315	0.9%	2,112	160.6%	1,671
経常利益	6,863	2.1%	4,531	3.3%	2,331	51.5%	6,704
特別利益	778	0.2%	8	0.0%	769	-	256
特別損失	30,242	9.3%	24	0.0%	30,218	-	330
税金等調整前四半期(当期)純利益又は純損失	22,601	7.0%	4,515	3.3%	27,116	-	6,630
法人税等	5,372	1.7%	3,109	2.3%	2,262	72.8%	3,325
少数株主損益	498	0.2%	85	0.1%	584	-	124
四半期(当期)純利益又は純損失	28,472	8.9%	1,491	1.1%	29,963	-	3,429

(注) 1.前年同期比増減欄の増減率は下記の計算式によって算出しております。

$$\text{増減率} = \frac{(\text{A})\text{当年第3四半期の実態} - (\text{B})\text{前年第3四半期の実態}}{(\text{B})\text{前年第3四半期の実態}} \times 100$$

2.上記の数値は、未監査であります。

第3四半期の(要約)連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	19年6月期第3四半期 自平成19年1月1日 至平成19年3月31日 (A)		18年6月期第3四半期 自平成18年1月1日 至平成18年3月31日 (B)		前年同期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額(A)-(B)	増減率
	売上高	195,093	100.0%	47,591	100.0%	147,502
売上原価	154,186	79.0%	31,558	66.3%	122,628	388.6%
売上総利益	40,907	21.0%	16,033	33.7%	24,873	155.1%
販売費及び一般管理費 (うち のれん償却額)	35,625 (1,063)	18.3% (0.5%)	14,489 (472)	30.4% (1.0%)	21,136 (590)	145.9% (125.0%)
営業利益	5,281	2.7%	1,544	3.2%	3,736	242.0%
営業外収益	469	0.2%	134	0.3%	334	249.4%
営業外費用	1,213	0.6%	450	0.9%	763	169.6%
経常利益	4,536	2.3%	1,228	2.6%	3,308	269.3%
特別利益	114	0.1%	6	0.0%	107	-
特別損失	1,286	0.7%	11	0.0%	1,274	-
税金等調整前四半期(当期)純利益	3,364	1.7%	1,223	2.6%	2,141	175.0%
法人税等	2,468	1.3%	1,085	2.3%	1,383	127.5%
少数株主損益	577	0.3%	48	0.1%	626	-
四半期(当期)純利益	318	0.1%	187	0.4%	131	70.2%

(注) 1.前年同期比増減欄の増減率は下記の計算式によって算出しております。

$$\text{増減率} = \frac{(\text{A})\text{当年第3四半期の実態} - (\text{B})\text{前年第3四半期の実態}}{(\text{B})\text{前年第3四半期の実態}} \times 100$$

2.上記の数値は、未監査であります。

5. セグメント情報

当第3四半期(累計)

(単位:百万円)

	人材派遣・ 請負	その他人材	介護・医療 支援	シニアレジデンス・ レストラン	その他	計	消去又は全社	連結
外部顧客に対する売上高	248,022	0	62,716	8,908	4,492	324,140	-	324,140
セグメント間の内部売上高又は振替高	669	-	0	624	2,436	3,730	3,730	-
計	248,692	0	62,716	9,532	6,929	327,871	3,730	324,140
営業費用	237,069	0	64,504	10,522	6,969	319,065	4,153	314,911
営業利益(又は営業損失)	11,622	0	1,787	989	39	8,805	422	9,228
のれん償却前営業利益	12,636	0	947	884	284	11,089	422	11,511

(注)「その他人材」セグメントは前第1四半期までは「人材関連」セグメントとして記載しております。

当第3四半期

(単位:百万円)

	人材派遣・ 請負	その他人材	介護・医療 支援	シニアレジデンス・ レストラン	その他	計	消去又は全社	連結
外部顧客に対する売上高	167,080	0	21,974	3,327	2,711	195,093	-	195,093
セグメント間の内部売上高又は振替高	366	-	0	219	2,426	3,012	3,012	-
計	167,447	0	21,975	3,546	5,137	198,106	3,012	195,093
営業費用	161,339	0	22,535	3,768	4,853	192,497	2,684	189,812
営業利益(又は営業損失)	6,107	0	560	221	283	5,608	327	5,281
のれん償却前営業利益(又は営業損失)	7,015	0	518	221	397	6,671	327	6,344

(注)「その他人材」セグメントは前第1四半期までは「人材関連」セグメントとして記載しております。

前第3四半期(累計)

(単位:百万円)

	人材派遣・ 請負	人材関連	介護・医療 支援	シニアレジデンス・ レストラン	その他	計	消去又は全社	連結
外部顧客に対する売上高	83,663	2,038	46,890	1,728	814	135,135	-	135,135
セグメント間の内部売上高又は振替高	250	6	2	60	2	322	322	-
計	83,913	2,044	46,893	1,788	817	135,457	322	135,135
営業費用	77,699	2,397	46,284	2,752	927	130,061	423	129,638
営業利益(又は営業損失)	6,214	352	608	964	109	5,396	100	5,496
のれん償却前営業利益(又は営業損失)	6,236	135	1,680	935	91	6,754	100	6,854

前第3四半期

(単位:百万円)

	人材派遣・ 請負	人材関連	介護・医療 支援	シニアレジデンス・ レストラン	その他	計	消去又は全社	連結
外部顧客に対する売上高	28,943	768	15,864	1,728	287	47,591	-	47,591
セグメント間の内部売上高又は振替高	78	0	2	60	1	144	144	-
計	29,021	769	15,866	1,788	289	47,735	144	47,591
営業費用	27,045	853	15,815	2,223	321	46,258	211	46,047
営業利益(又は営業損失)	1,976	84	51	435	31	1,476	67	1,544
のれん償却前営業利益(又は営業損失)	1,984	11	408	406	25	1,949	67	2,016